

令和7年度乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）



乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）とは

<p>概要</p>	<p>保育所等に通っていない満3歳未満のお子さんが、保護者の就労要件を問わず、毎月一定時間、保育所・認定こども園・幼稚園等に通うことができる通園制度。</p>
<p>目的</p>	<p>こどもの成長の観点から、全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備する。</p>

- **対象者**
 - ① 0歳6か月から満3歳未満
 - ② 郡山市に住民票がある
 - ③ 保育所等に通っていない
- **利用時間**
1か月当たり10時間
- **期待される効果**
 - ・こども：家族以外の人や他のこどもとの関わりが、他者への興味の広がりや、成長発達に資する経験となる。
 - ・保護者：専門職（保育士等）への相談や関わりが、育児負担の軽減や孤独感の解消につながる。

事業の経過について

	2024 (R6)年度	2025(R7)年度	2026(R8)年度
国	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法及び子ども・子育て支援法を改正し、法制化 ・認可基準の内閣府令を発出 	<p>「地域子ども・子育て支援事業」（国庫補助事業）の一つとして、乳児等通園支援事業を開始</p>	<p>子ども・子育て支援法に基づく新たな「乳児等通園支援給付」が開始</p>
市	<p>【試行的事業】 本格実施を見据えた試行的事業を市内8施設にて実施</p>	<p>【補助事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施施設を公募し「認可」 ・認可施設において事業を開始（市内11施設） ・2026年度の給付制度開始に向け、対象施設を給付制度実施施設として「確認」 	<p>【本格実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの申請に基づき、市が給付認定（給付＝利用する権利の付与） ・保護者は、当該事業を利用（給付を受ける） ・市内12施設にて実施

乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）について



令和8年6月定例会
常任委員会資料
(こども部)

令和7年度の取組について

① 広報活動

- ・ 広報用ポスター [令和7年8月～]
公共施設・小児科等へ約220枚配付
- ・ 広報用チラシ [令和7年10月～]
こんにちは赤ちゃん訪問にて0歳児を対象に配付、0歳児養育支援給付金申請案内に同封、市民課窓口を設置。
- ・ プッシュ型通知 [令和7年12月～]
保育所に通っていない1歳児のいる世帯に制度周知チラシを配付。
- ・ 市広報 [随時]
広報こおりやま・市SNSへの掲載、郡山市週間トピックスで放送 等

② 総合支援システム移行の支援

利用者向け

- [令和8年3月]
・ 令和7年度利用者に、システムの利用や認定申請について個別に通知した。
- ・ システム移行に関し市ウェブサイトで周知した。

事業者向け

- [令和8年3月]
・ システムの使用方法的説明動画をYouTubeで公開し、使用方法を周知した。

円滑な制度の運用のため、次の取組を行いました。



③ 実施施設数及び利用定員の増加について

実施施設の認可や利用定員の設定については、子ども・子育て会議にて意見聴取をし、承認を得ました。

実施施設

- ・ 令和7年4月1日から公立保育所1施設で開始。
- ・ 令和7年4月から公募し、7月以降、各認可保育施設等10施設で実施。

県内最多

⇒11施設で実施。

- ・ 令和8年3月に、富久山保育所での事業開始を決定。(令和8年4月～)

利用定員

- ・ 令和7年12月に、各認可保育施設等あて、利用定員の変更等の検討を依頼し、利用定員を増加。

令和7年12月時点

0歳	1歳	2歳	合計
8名	11名	29名	48名

令和8年3月時点

0歳	1歳	2歳	合計
8名	19名	24名	51名

県内最多

※令和8年4月から、富久山保育所での新規実施及び既存施設での定員変更により、利用定員が増加【利用定員59名】

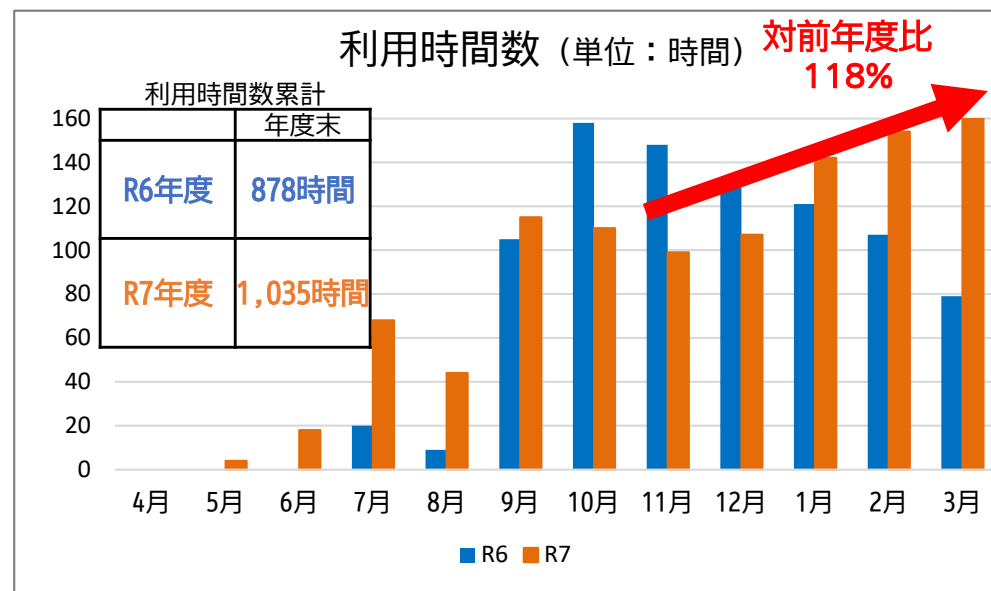
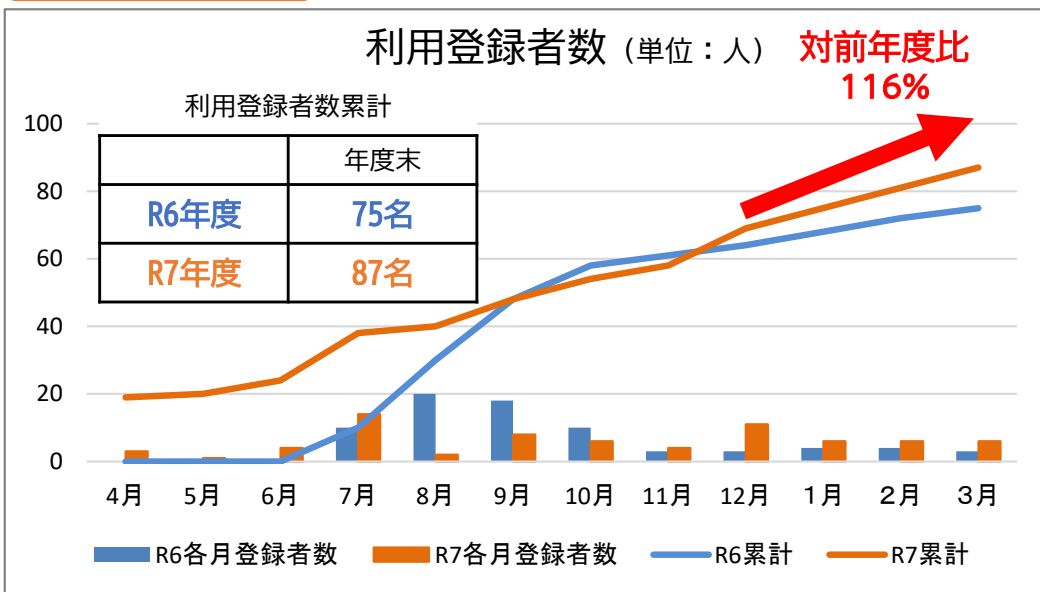
令和7年度乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）



令和8年6月定例会
常任委員会資料
(こども部)

利用実績

令和6年度と比較し、利用登録者数・利用時間数ともに前年度実績を上回りました。



令和6年度と令和7年度の利用実績比較

- 各月の登録者数は、11月に前年度を逆転し、利用登録者数累計は令和7年度の方が多結果となった。
- 利用時間数は、11月以降に伸びが見られ、利用時間数累計は令和7年度（1,035時間）と令和6年度（878時間）とで、大きく差が生じた。

利用登録者数・利用時間数が伸びた要因

利用登録者数

令和7年12月に発送したプッシュ型周知※により利用登録者数が増えたと考えられる。
※保育所に通っていない1歳児のいる世帯へ制度周知のチラシ等を発送。

利用時間数

令和6年度は2歳児の利用が多く、毎月、満3歳到達者分の利用が減少となったことから、年度後半の利用時間数が減少した。
令和7年度は0歳・1歳の定員数を多く設定し、年度を通して制度を利用できる0・1歳児の利用が増えたため、利用時間数も伸びたものと考えられる。

令和7年度乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）

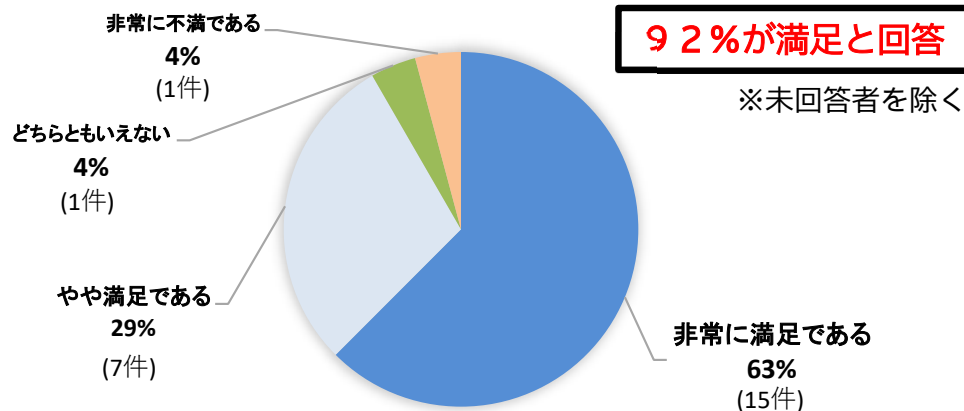


令和8年6月定例会
常任委員会資料
(こども部)

令和7年度利用者アンケート結果（1）

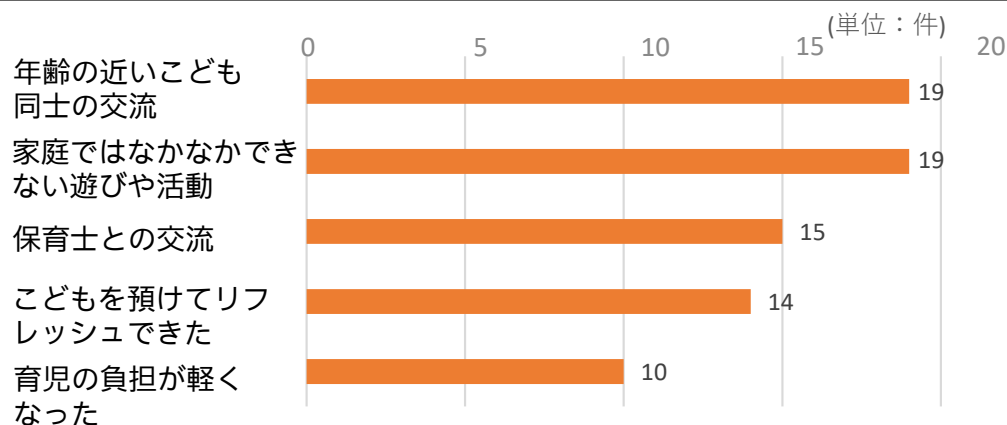
利用者向けアンケートを実施し、事業の効果と改善点等の意見を得ました。
(有効回答件数：27件、回答率：約31%)

満足度



▶ こども誰でも通園制度に対し、利用者からの満足度は高い結果を得た。

利用してよかったと思う点（複数選択可）



▶ 家族以外の人や他のこどもとの関わり等に意義を感じている。また、保護者のリフレッシュ、育児の負担感軽減を挙げる利用者も多かった。

改善してほしいと感じたこと

○ 予約方法

- ・制度専用のウェブ予約システムなどがあるととても助かるのではないかと思った。
- ・毎回の手書き書類と領収書は現場の負担を軽くする上でも別の方法を取れないかな？とは思いました。

○ 利用時間

- ・月10時間だと少ないのでもう少し時間を増やしてくれると嬉しい。

○ 利用枠

- ・1歳になったのに、0歳児扱いになってしまい、行きたい施設に行けなかった。

○ その他

- ・利用料の無償化。
- ・給食が出る施設を増やして欲しい。

▶ 施設の予約方法の利便性向上を求める意見が多かった。
利用時間又は利用枠について、改善を希望する意見が多かった。

令和7年度乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）



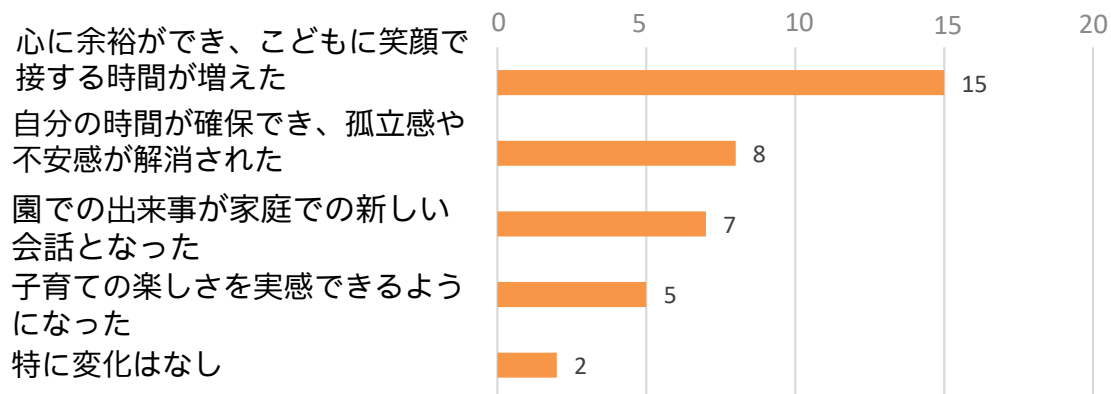
令和8年6月定例会
常任委員会資料
(こども部)

令和7年度利用者アンケート結果(2)

制度利用後の、保護者及びこどもの変化について調査しました。

制度利用後の保護者の変化（複数選択可）

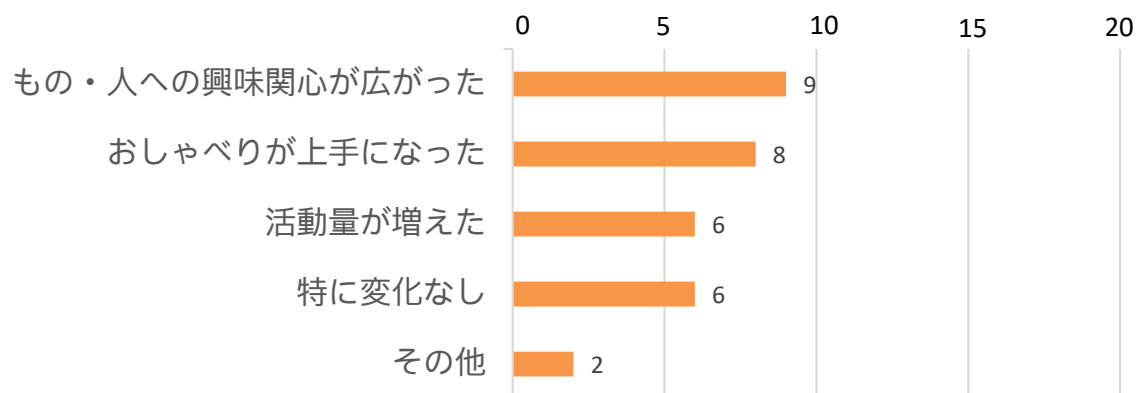
保護者の変化



▶ 制度利用により、一定程度、自分の時間が確保されることで、保護者の「心の余裕」「孤立感、不安感の解消」に効果があったと考えられる。

制度利用後のこどもの変化（複数選択可）

こどもの変化



・その他として、「保護者と一緒の時以外でもご飯を食べたり寝たりできた」、「数回のみ利用で、まだ変化は感じられていないが今後が楽しみ」という意見があった。

▶ 制度利用により、同世代のこどもや保育士との交流を経験することで、こどもの興味関心の広がりや成長発育に効果があったと考えられる。

令和7年度乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）



令和8年6月定例会
常任委員会資料
(こども部)

実施事業者アンケート結果

事業者向けアンケートを実施し、事業の効果と改善点等の意見を得ました。
(有効回答件数：10件、回答率約91%)

事業の成果について

○ 保護者への対応

- ・保護者から相談を受けたり、保育に関する助言を求められたりする機会があり、保護者の育児等に関する悩みに応えることができた。

(例：引越し間もない保護者に対し、心配事へのアドバイスや、近所の病院の紹介等を行った。)

○ こどもの変化

- ・制度利用のこどもが、保育者や同年齢の友達との関わりを持つことで、社会性が広がり自分でやろうとする意欲が出てきた。

○ 事業者にとっての成果

- ・園を知ってもらう良い機会となっている。
- ・在園児が、制度利用のこどもとどう関わりを持つか等、新しい発見があり嬉しい。

- ▶ ・保護者への対応（相談・助言）を通じて、地域の子育て支援に繋がっていると考えられる。
- ▶ ・こどもには、社会性や意欲の向上が見られ、こどもの成長にプラスの効果が見られる。
- ▶ ・事業者にとっては、在園児の新たな一面の発見や、園を知ってもらう機会になっている。

事業で見えた課題について

○ 人員配置

- ・人員配置の面で苦慮した。（制度上、低年齢のこどもを預かるため1対1の対応となりやすい）

○ 利用者数

- ・なかなか利用者が増えない。

○ その他

- ・事業として実施するには収益性が低いと思った。
- ・利用時間が短いとお子さんの発達の把握もしにくいため、保護者へ成長や変化をお伝えする事は難しい。

- ▶ ・人員配置の点で課題を感じている意見があった。
- ▶ ・利用者が増えない等の意見から、制度自体の認知度が低いことが考えられる。
- ▶ ・制度上の利用時間に伴う課題、事業の収益性の低さを挙げる意見があった。
- ▶ ・更なる事業周知による制度の認知度向上を図り、事業の安定的な運営につなげる必要あり。

令和7年度乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）



令和8年6月定例会
 常任委員会資料
 （こども部）

アンケートから見た成果と課題

	利用者	事業者
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高い満足度 ・ 保護者の孤立感、負担感軽減 ・ こどもの成長発育に繋がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者への助言を通じた地域子育てへの貢献 ・ こどもの成長に寄与 ・ 事業者の認知度向上
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予約方法等の利便性向上 ・ 利用時間等の制限 ・ 利用枠（定員）の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人員配置の難しさ ・ 制度自体の認知度の低さ ・ 事業の収益性の低さ ・ 利用時間の制限による児童の状態把握の難しさ

課題への取組

- ・ 予約方法等の利便性向上のため総合支援システムを導入した。
- ・ システムの利用について、利用者、事業者に円滑なシステム運用ができるよう、引き続きサポートする。
- ・ 利用枠の拡大のため、0歳児の利用定員増に向け、事業者へ定員変更を促していく。
- ・ 制度の広報活動をさらに充実し、市民への浸透を図る。
 （市内約220カ所へポスター配付、各種SNSや広報こおりやまの活用等）
- ・ さらなる利用者数の増のため、0～2歳児を対象としたプッシュ型周知を実施する。
- ・ 利用時間等の制度の課題について、国に改善を要望していく。